

## 第5学年国語科学習指導案

1 単元名 漢文に親しむ

2 単元の目標

- 古典や漢文のリズムや響きを、読み味わいながら音読しようとする。(国語への関心・意欲・態度)
- 親しみやすい古典や漢文について、内容の大体を知り、音読をする。

(伝統的な言語文化に関する事項)

- 古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知る。

(伝統的な言語文化に関する事項)

3 評価規準

国語への関心・意欲・態度	伝統的な言語文化に関する事項	
・漢文のリズムや響きを、読み味わいながら、作品に合った音読をしようとしている。	・親しみやすい漢文について、内容の大体を知り、意欲的に音読している。(ア)	・漢文について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を想像している。(イ)

4 単元について

本単元では伝統的な言語文化に関する事項の「ア親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること」「イ古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること」から、漢詩や論語といった漢文の作品を読み味わい音読や暗唱をする活動を、単元を貫く言語活動として位置付ける。情景を文中の漢字の意味から読み取ったり、現代の考え方や感じ方と比べたりする活動を行い、漢文に親しませていく。そして、その作品の情景や作者の思いを味わった後に音読をすることによって、漢文独特のリズムや、豊かな情景や考えを表現している漢文の魅力により引き込まれるようにしたい。

本教材では漢詩や、論語、大学など中国の古典を扱う。漢詩は、漢字が表意文字であることから、少ない文字数でも豊かな情景や心情が表現できるという特長に気付かせ、また独特なリズムでの音読にも親しませたい。論語や大学では、現代にもつながる先人の考えが述べられている。子供たちにとっても共感できることの多い題材であるため、漢文学習の導入として使用し、より漢文への学習が取り組みやすくなるものにしていく。論語は、孔子の言行録であるということから、論語や大学から引用された漢文は暗唱をすることで、当時の孔子たちの学びの様子も体験させながら学習を進めていきたい。

(1) 言語活動を通して身に付けさせたい力

本単元は「ア親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること」「イ古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること」を受けて設定している。そこで本単元では漢文に親しみをもたせ、漢文は読んで楽しいものであることや、自分を豊かにするものであることを実感させたい。そのために、論語や大学の学習時

は、暗唱を通して筆記具がなくとも師の教えを乞いた、先人たちの学びの姿勢を知ることができるようにする。そして、先人の学びの姿勢と自分の今の学びの姿勢と比べ、自分の生活に生かそうとする力を身に付けさせたい。漢詩では、漢字一文字一文字の意味を捉えることで、作品の世界を味わえる、作品を楽しむ力を身に付けられるよう、支援をしていく。

## (2) 本単元を支える日常的な言語活動

### ①ゲームを取り入れた学習活動の工夫

本校では漢字道場といった独自の取り組みがあり、年に2回、50問の漢字テスト形式で行っている。そのため漢字学習に対しての意欲は高いが、一方で文章の読み取りは苦手である。本教材である漢文は普段から親しみが無いものであると同時に、現代語訳も児童にとっては難しいと感じ、学習を敬遠することが予想される。そこで児童の学習への意欲を高める狙いで、「たほいやゲーム」という楽しみながら漢文を学ぶゲームを取り入れていく。

「たほいやゲーム」は欧米で「ディクショナリー」と言われる通り、辞書で選んだ単語について、辞書に書かれた本来の意と、出題者が分かりにくく作った本来と異なる意をまぜて発表し、参加者が本来の意を当てるゲームである。漢文により親しみやすくなるように、本単元の中で効果的に取り入れていく。

### ②創作漢字づくりによる漢字への慣れ親しみ

児童は既にある漢字を組み合わせたり、一部を変えたりすることで、事象を表す新たな漢字を生み出す「創作漢字づくり」に定期的に取り組んでいる。創作漢字は産経新聞や喜多方市などいくつかの企業や自治体がコンテストという形で主催しており、児童も自信作をコンテストに送ってみたいと意欲的である。創作漢字を作ることによって自分から漢字辞典で既存の漢字や部首を調べるようになった児童もおり、本単元の学習にもつながる力が身に付けられると考える。

### ③今日の一文の紹介

児童は本単元で初めて漢文という作品に触れるため、多くの漢文に触れさせたい。そのために、朝の会に一日意識することとして教師が漢文を紹介する活動を行う。紹介の仕方を「たほいやゲーム形式」で行うことで児童が関心をもち、取り組みやすくする。漢文に親しむことができるよう、紹介したものは学級内に掲示し、漢文が身近なものとなるように環境を整えていく。

## 5 児童の実態 (略)

6 単元の指導計画（全4時間）

次	時	学習活動	指導の支援の手立て◇評価（評価方法）
一次	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○湯島講堂の挿絵や、孔子の挿絵から、何をしているところかを想像する。</li> <li>○論語「温故知新」大学「心不在焉」の書き下し文を読む。</li> <li>○書き下し文から、それぞれの教材の伝えたいことを考える。</li> <li>○「たほいやゲーム」を通していくつかの作品に親しむ。</li> <li>○学習した漢文を、音読する。</li> <li>○共感した作品はないか班で話し合う。</li> <li>○班でどんな意見が出たか発表する。</li> <li>○作者はそんなところに感動したんだ、作者の考え方がすごいな、など、作品についてなるほどと思ったところを「なるほどポイント」として一つ書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○それぞれの挿絵に関して、いつごろのことか意識させる。</li> <li>○意味を想像しながら読むことを伝える。</li> <li>○漢文の内容から、自分の経験の中で共感する場面はなかったか問う。</li> <li>○今後の学習で扱った漢文を一つ覚えることを伝える。</li> <li>◇昔の人の見方や感じ方を知って、驚いたことや気付いたことを書いている。（ワークシート）</li> </ul>
二次	2 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「春暁」「春夜」「静夜思」の題名だけを読み、どんな内容か予想させる。</li> <li>○「春暁」の白文を読む。</li> <li>○知っている漢字から、読み方や、漢詩の場面を想像する。</li> <li>○書き下し文を読む。</li> <li>○「たほいやゲーム」形式で、班の友達と内容を予想する。</li> <li>○班ごとに場面の様子を具体的に想像し、発表する。</li> <li>○作者の心情を想像しながら、「春暁」を音読する。</li> <li>○作者はそんなところに感動したんだ、作者の考え方がすごいな、など、作品についてなるほどと思ったところを「なるほどポイント」として一つ書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時を振り返り、「論語」との違いに注目させる。</li> <li>○班ごとに情景描写が想像できるよう、わからない漢字の意味を辞典で調べてみることを促す。</li> <li>○情景や、作者の気持ちを意識して音読するように伝える。</li> <li>◇昔の人の見方や感じ方を知って、驚いたことや気付いたことを書いている。（ワークシート）</li> </ul>
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「春夜」「静夜思」の白文を見る。</li> <li>○「春夜」「静夜思」の書き下し文を音読する。</li> <li>○「春夜」「静夜思」の書き下し文から、どんな内容かを予想する。</li> <li>○2つの詩の現代語訳を読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○知っている漢字をもとに、読み方や漢詩の場面を想像させる。</li> <li>○班ごとに情景描写が想像できるよう、漢字の意味を想像してみることを促す。</li> <li>○情景や、作者の気持ちを意識して読むよ</li> </ul>

		<p>○2つの詩を、情景や作者の心情に着目して比べ、音読する。</p> <p>○作者はそんなところに感動したんだ、作者の考え方がすごいな、など、作品についてなるほどと思ったところを「なるほどポイント」として一つ書く。</p>	<p>うに伝える。</p> <p>○二つの詩の同じところと違うところはどこかに着目させて、情景と心情をまとめられるようにする。</p> <p>◇昔の人の見方や感じ方を知って、驚いたことや気付いたことを書いている。(ワークシート)</p>
三次	4	<p>○お気に入りの作品を覚える「暗唱チャレンジ」に取り組む。</p> <p>○学習した漢文の中から気に入った作品を選ぶ。</p> <p>○漢文の中の、気に入った作品の書き下し文と現代語訳をワークシートにまとめる。</p> <p>○繰り返し音読し、暗唱できるようにする。</p> <p>○友達に自分が覚えた漢文を暗唱する。</p>	<p>○今まで扱った作品を掲示する。また、普段の「たほいやゲーム」で紹介した作品を覚えてもよいことを伝える。</p> <p>○気に入った作品を決めるのに迷っている児童には、普段の様子から気に入りそうな論語の作品をいくつか示す。</p> <p>○選んだ作品ごとにグループを作って読ませる。</p> <p>◇意欲的に音読、暗唱の活動に取り組んでいる。</p>

## 7 本時の目標と展開

### (1) 本時の目標

- ・親しみやすい漢詩を読み、内容の大体を知る。 (伝統的な言語文化に関する事項)

### (2) 本時の学習活動

- ・「春暁」の白文や書き下し文から、どんな内容か想像する。
- ・作者の心情や作品の情景を味わって音読する。

### (3) 本時の展開 (4時間扱いの2時間目)

学習活動	指導の支援の手立て◇評価 (評価方法)
<p>1 前時の学習を振り返り、めあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「春暁」「春夜」「静夜思」からどんな内容の作品か予想する。</li> </ul>	<p>○前時の「論語」「大学」を振り返り、「漢詩」について簡単に説明し、本時では「春暁」を扱うことを伝える。</p>
<p>「春暁」の場面を想像して、音読してみよう。</p>	
<p>2 春暁の白文を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・習ったことのある漢字から、読み方や、漢詩の場面を想像する。(季節、場面、時間など)</li> </ul>	<p>○「春暁」の表していることはどんなことか想像していくことを伝える。</p>
<p>3 書き下し文を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体で群読をする。</li> </ul>	<p>○書き下し文を掲示する。</p> <p>○読み方から、内容の予想がよりできるようになったところはあるか問う。</p>

<p>4 「たほいやゲーム」形式で、現代語訳を予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意味を読み取れない漢字は漢字辞典を用いて調べてもよい。</li> </ul> <p>5 予想を友達と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で予想をする。</li> <li>・班を作り、班の友達とどの訳が適切か話し合う。</li> </ul> <p>6 「春暁」の場面を想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白文を見た時に想像した場面の様子よりも、具体的に想像していく。</li> <li>・班ごとに場面の想像を話し合い、発表する。</li> </ul> <p>7 作者の心情を想像しながら、「春暁」を音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・群読を2回した後、1分間読みをする。</li> <li>・一連ごとに列読み、交互読みなどをし、情景を意識して作品を読んでいく。</li> </ul> <p>8 学習の感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作者の表現に共感したところや、驚いたところなど、作品についてなるほどと思ったところを「なるほどポイント」として書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○三択の「春暁」の現代語訳を示し、適当な現代語訳を予想させる。</li> <li>○一人一冊漢字辞典を用意する。</li> <li>○情景描写が想像できるよう、わからない漢字の意味を、読み方から辞典で調べてみることを促す。</li> <li>○何人かに予想の簡単な理由を聞く。</li> <li>○全員の予想が出たところで、正解の現代語訳を示す。</li> <li>○必ずしも正解という意味でなく、細かな差異は読み取る人によって異なることを伝える。</li> <li>○孟浩然が、日常の小さなことでも詩に残していることに注目できるようにする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○現代語訳から、場面の様子を想像させていく。</li> <li>○今の天気や時間、どんな鳥が鳴いているのか、どんな花が咲いているのか、春の眠りというのはどんな心地がするものか、など詩の展開に沿って班で話し合う質問を板書していく。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○情景や、作者の気持ちを意識して読むように伝える。</li> <li>◇作品の内容の大体を知り、作品に合った音読をしている。</li> <li>◇昔の人の見方や感じ方を知って、驚いたことや気付いたことを書いている。(ワークシート)</li> <li>○書き終わった児童から、現代語訳をワークシートに書いて待つように伝える。</li> </ul>
---	--